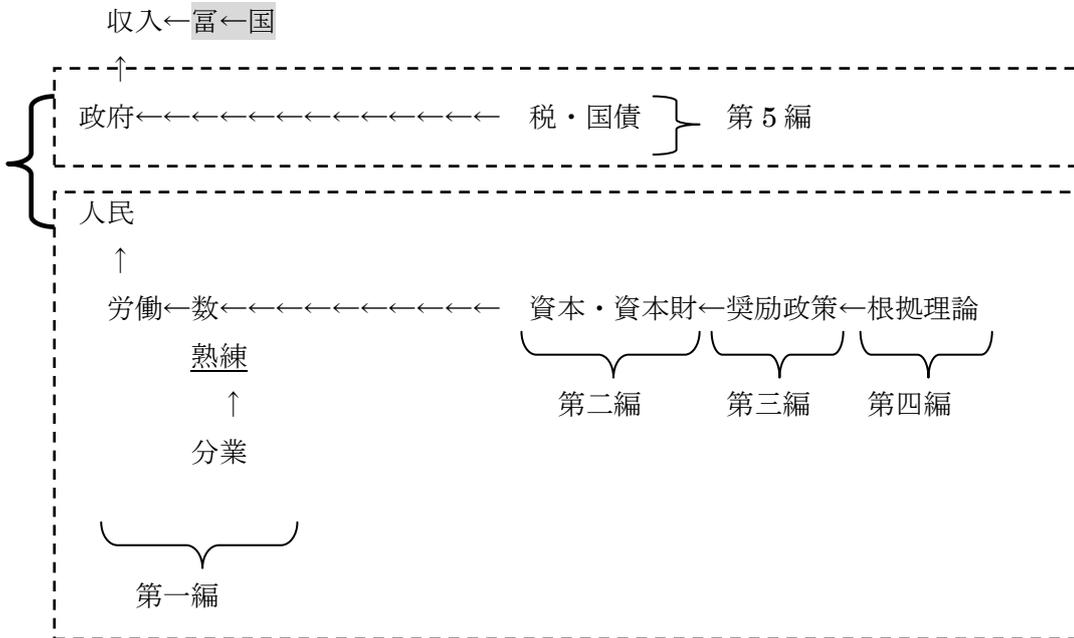
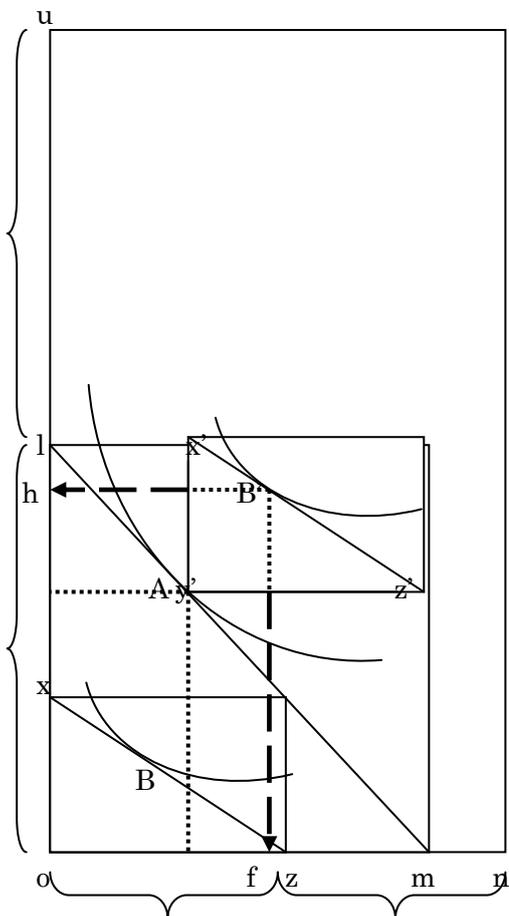


6・5 『国富論』序章、第1, 2章

1) 序章の編別構成について



2) 1, 2章での疑問：分業はいつでも有用か？



ozx は交換者 P を表す。
 oml は交換者 Q を表す。
 それぞれ比較優位な商品に特化する。
 →P は on に、Q は ou に。
 この生産物を交換する。
 生産前の最大効用をもたらす消費量は、P は B の点、Q は A の点であった。それと同じ量の満足を表す商品量は of と oh である。
 これだけ消費しても、分業のあとでは、商品はそれぞれ fn、hu だけ余る。これを交換すれば両者の効用はさらに増える。
 よって、分業はいつでも有用である。(これは国家間でも同じである。…リカードの比較優位の理論。)